
偽イカロス

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽イカロス

【Nコード】

N7527N

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

その男を笑え。それが最も正しい選択だ。

愚かな事だと思う。

まがい物の羽を携えて空に昇る事を試みた時点で、寸刻先の死が約束されてる。

どれだけ高く舞ったところで、空には大地も城も無い。

羽を失えば堕ちて死ぬ以外の選択肢が無い。

そして羽は必ず失われる。

空へ踏み出す一步は、然る後に破滅へ至るための一步だ。

そうと分かっているその一步を踏み出すのはとても愚かな事だ。

でも、その時点ではまだ本当に最悪じゃない。

もっと最悪の愚かさがある。

偽イカロス。

彼の最大の過ちは、墜落して正しく死ぬるほどの高度に至れなかった事だ。

愚かな上に間違いをした。

飛ぶための羽を失って堕ちて、墜落の際に歩行能力も損なって、地べたを這い蹲って生きる他無い。

全て自業自得だ。

羽が無いなら歩けばよかった。

それでもまがい物の羽で飛ぶ事を選ぶなら、堕ちて死ねる高さまで昇りつめるべきだった。

昇る事も叶わないなら、正しく着陸する事を考えるべきだった。

墜落とも着地ともつかない格好で、最も損害の大きな形で地に転げ落ちる。

羽を使う事にも足を使う事にも半端だった人間の末路がこれだ。

羽も足もうまく使えないなら、せめて頭を使うべきだった。

頭さえ使えないのなら「何も使わない」べきだった。

ありとあらゆる場面で、ありとあらゆる選択肢を間違えた。

何もかもを失うだけならまだいい。

失った上に、もう使い物にならない破れた羽と、折れて動かなくなった足だけが残った。

墜落しても死ねなかつた偽イカロスは、破れた羽と折れた足を引きずって、地べたを今日も這い回る。

飛んで堕ちて死んだ哀れな男より、飛べなかつた臆病な男より、それらを指差して笑う観衆よりなお悪い。

そんな最低最悪の醜悪な男を何人か知ってる。

偽イカロス。

僕が彼らと戯れる理由なんて問うまでも無い。

僕が博愛精神に満ちた寛大な人間だからでもなければ、自分以下の人間を嘲笑して悦に浸るためでもない。

僕もまた、飛んで堕ちて死にきれなくて地べたを這い回るだけの、醜く滑稽な偽イカロスだからだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7527n/>

偽イカロス

2010年10月9日21時54分発行